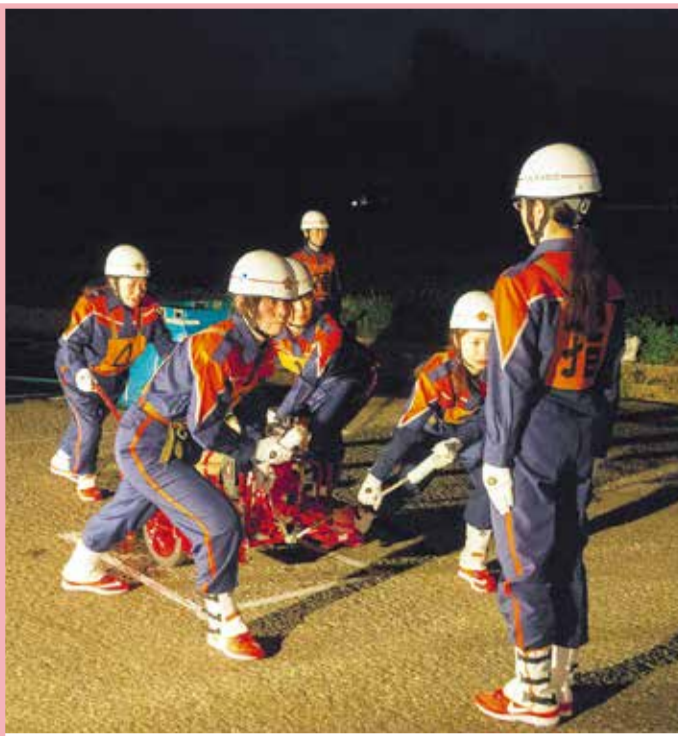


mari*mari close-up

消防の基本を競う

全国女性消防操法大会秋田県代表
大仙市女性消防隊 1番員

茂木 未来さん



「火点は前方の標的、水利はポンプ左側後方貯水槽、手びろめによる二重巻きホース1線延長」。指揮者の号令が飛ぶ。4人の隊員が、それぞれ指定位置に付き、無駄のない動きで「消火活動の基本」とされる操法を開始。全員から「地域の安全を守る」という気概が伝わってくる。

大仙市女性消防隊は、秋田県代表として全国大会に3大会連続出場。茂木未来さんは放水用の筒先を担当する1番員だ。最も若く、身長173センチと最も背が高い。いっぱい笑顔で話す茂木さんだが、「整列休め」の号令がかかった瞬間に厳しい表情に。「次の行動はこれ、その次の行動は…」



Profile もてぎ・みくさん

大仙市在住の会社員。趣味は買い物、DVD鑑賞。焼き肉が大好き。中学時代はバレーボール部に所属。

頭の中は行動やルールでいっぱい。歩幅にも注意が必要だ。「待機線から集合線まで2メートルを3歩。かかるとが線からはみ出すと減点対象だ。すべての行動で決められた姿勢、手の位置、足の位置などを繰り返し訓練している。

操法が始まった。隊員4人で小さなエンジンのポンプを載せた台車を半回転させた後、3番員と4番員が貯水槽からの吸水を確保する。さらに2番員が2メートルのホース2本を標的方向に伸ばす。茂木さんは、右手に筒先を持ち、左腕に2メートルホース一巻を抱えながら、延長ホースの先端がくるはずの4メートル先まで走る。「自分が運んだホースの延長を開始した位置が予定通りかどうか。手前であれば、接続口をたるませなければならぬし、オーバーすると、接続ホースを手繰り寄せなければなりません。無駄な動きが増えるのです」

この日の操作タイムは61秒。終了すると、隊員たちはすぐに反省点と注意点を話し合い、改善の工夫をする。持ち場ごとの訓練も始まる。指導員は「全国大会の基準タイムは55秒。一つの動作をミスして修正すれば同じ動きを2度することになるので、すべての動作をいかに正確に、機敏に行うかがポイントになりま

る位置は、スタートから27歩地点。歩数を数え忘れて、位置がずれてしまうこともあり」

「昨年秋の県大会では、余裕ホースを踏んでしまう大失敗をしました。その瞬間、アツアツしてしまっ

た、と思いました」

3年前、大仙市消防団に入団した。長年消防団で活動してきた父隆市さんの勧めがあったからだ。最初の研修で防災や救急に加えて、普段の行動とは無縁の整列や「気をつけ」の姿勢を学んだ。「かかとを付けて、足先を少し開く。背を伸ばしてすつと立つ。手の指を開かない。腕をまっすぐピッと下ろして伸ばす」。最初は戸惑ったようだが、今は自然にこなす。練習開始直前、隊員の前で敬礼のポーズを決めた。隊員から「指をそろえ、二の腕はもっと上」など優しい指導の声が飛んだ。



▲大仙市女性消防隊のメンバー

「先頭に立つ1番員に私が選ばれたのは、身長が高いためでしょう。筒先を腰で支えるのですが、身長分だけ筒先の位置が高く、高さ約2メートルの標的に

対する角度が直線的になるからでしょう」と茂木さんは笑う。

5月からは週2回。暗くなるライト2基で照らしながら頑張ってきた。「こうやって練習できるのは、家族の協力はもとより、職場や地域の皆さんの応援のおかげです」と隊長の一言順子さん。茂木さんは「秋田県の皆さんが元気になるように頑張りますので、全国大会の大仙市女性消防隊の活躍をぜひ見守ってほしい」と話していた。

茂木さんたちが全国大会に向けて練習を開始したのは今年4月から。大曲消防署西分署（大仙市南外）前の訓練スペースに、仕事を終えた後の午後6時半に集合、午後8時ごろまで。当初は週1回、

【大仙市女性消防隊】 大仙市消防団（8支団34分団1,256人）に所属。女性団員は38人。応急手当や救命講習、AEDの使い方などの啓発活動がメインで、火災現場の消火活動には出動していない。全国大会出場メンバーは隊長と指揮者、1番員から4番員、補助員の7人構成。50代3人、40代2人、30代、20代。